多賀中学校だより

令和６年１月３０日
第10号
校長　山本　順

学校教育目標　**豊かな人間性を持ち、たくましく生き抜く力をそなえた生徒の育成**
～ひとすじに学び、たくましく鍛え、すこやかに励む～

校訓　醇厚（じゅんこう）　剛健（ごうけん）　叡智（えいち）　不屈（ふくつ）

「跡隠しの雪」

1月２５日は、多賀町も大雪に見舞われ、「顕著な大雪に関する気象情報」というあまり聞かない気象情報も耳にしました。多賀町立小中学校の一斉休校の明けた翌２６日は、登校した生徒達が雪かきをしてくれ、改めて多賀中生徒の心の温かさを感じる日になりました。雪が降って、雪かきをしながら、必ず思い出すことがあります。それは「跡隠し（あとかくし）の雪」という昔話です。今では小学校６年生の教科書にも出てくるそうです。

…ある冬の日の夕暮れ。旅の坊さまが一人、雪の上をやってきます。里の村を一軒一軒「泊めて下され」と立ち寄りお願いしますが、断られます。村はずれの家に立ち寄り、「何もいらないから一晩だけ宿を貸して下され」と頼みこみます。出てきた婆さまは、毎日の食事もろくに食べることができないような貧しいくらしでした。それでも、その婆さまはこころよく受け入れ、何か食べさせてやりたいと、しかたなく、日が暮れてから、となりのお金持ちの家から「今日だけは、許してくだされ」といって、大根を一本盗んできて、大根焼きをして食わしてやります。その夜は、いつにもまして寒い夜だったから、坊さまは、うまいうまいとしんからうまそうにして、その大根焼きを食べます。その晩、さらさらと雪は降ってきて、婆さまが大根を盗んできた足あとは、すうっとみんな消えてしまったのです。

これは、新潟県の昔話ですが、坊さまは弘法大師様であったとされています。盗むという行為はダメなことですが、何もかも包み込むように雪は降ってきて、その証拠となる足あとを消してくれるのです。この話には、どんなことが込められていると思いますか。大雪が降りました。多くの人が、困惑し、雪かきの重労働にも疲弊されたと思います。でも一面真っ白な多賀町を３階の窓から見ると、田んぼも畑も家も道も、よいことも悪いこともそっくりそのまま包み込んでくれる、真っ白な世界です。「跡隠しの雪」の心を思い出しながら、笑顔で雪かきを手伝ってくれている君たちの姿を見ていました。君たちは、失敗しても、拗ねても、怒ってもいいです。いつも家の人、先生、地域の人が君たちを見守っています。とにかく、前を向いて、進んで下さい。

以下は、始業式で発表してくれた、各学年代表の「今年の抱負」の要約です。紹介します。

1年　今﨑美玲さん

「今年は、今まで以上に勉強や部活動を頑張りたいです。そして４月に入学してくる新１年生にお手本が示せるような先輩になろうと思います。」

2年　澤田琥雅さん

「来年度の受験に向けて、家庭学習、授業の取り組み、苦手教科の克服に力を入れて勉強を頑張りたいです。」

3年　藤本ゆらさん

「私たち３年生は、進路選択や卒業が目の前に迫ってきています。また３年間一緒に過ごした友達ともお別れになるので１日１日を大切にしていきたいと思います。」

校長先生のお話

今年頑張ろうと思っている君たちへ。

◎夏目漱石は、ロンドンで「ひきこもり」になりました。
英語を研究するために、国からお金をもらい、わざわざイギリスまで行ったのに、結局何もできずに帰国しました。
◎トーマス・エジソン（発明家、科学者）
「なぜものが燃えるのか」知りたいと、藁を燃やして観察していたところ自宅の納屋が全焼。
◎孫正義（ソフトバンクグループ代表）
中学生の時、成績票を携え福岡市内にある有名な進学塾の門を叩くが、「その成績では入塾レベルに達していない」と門前払いとなりました。
◎ジャック・マー（アリババ創業者）
小学校から高校まで成績は常に平均以下。大学入試でも数学はたったの1点で、2浪の末にやっと合格しました。
◎坂本龍馬　子供時代、とても泣き虫で気弱な子供でした。12歳になって学問を学ぶために学校に通わされるが、勉強嫌いで、すぐにやめてしまいました。
◎物理学者のアインシュタイン　学校の先生からの評価は最悪、親もずいぶんと心配していました。「成績が悪い」　「いつも空想にふけっている」と学校からは散々な評価を受けていました。
◎ケンタッキ－フライドチキンのカーネルサンダ－ス　65歳まで何度も転職を繰り返し、ぱっとしない人生を送っていました。
◎アメリカにフレッド・アステアというハリウッドの大スターがいました。彼が初めてオーディションを受けた時の審査員メモです。「演技力なし、ちょっと髪の毛が薄い、ダンスは少々できる」
◎作曲家ベートーベン　不器用でバイオリンが下手でした。音楽の先生は彼の作曲について次のように言いました。「絶望的」。
◎大手スーパーマーケットの創始者ウールワース　奉公先の雑貨屋の主人からこう言われました。「接客のセンスがない」。
◎ディズニーの創始者ウォルト・ディズニーが、若いころ新聞社から辞職を迫られた理由です。「君にはアイデアがない」。
◎古代ギリシャの哲学者ソクラテスは、当時、次のように言われていました。
「若者を堕落させる不道徳者」。
◎「考える人」で有名な彫刻家ロダンは、美術学校の入学試験に３回落ちました。
◎「戦争と平和」の著者トルストイは、「何も学ばず、学ぶ気もない」とみなされ大学を成績不良で退学させられました。

「失敗図鑑すごい人ほどダメだった」大野正人（著）より

３年生にとっては、受験は不安でもあり、将来への希望とつながるものでもあります。「努力すれば必ず報われる」とは必ずしも言えませんが、努力した足跡は必ず残ります。

人生という長いスパンで考えたとき、今の努力は必ず報われます。信じて頑張ってください。

成功した人や、他者から「すごい」と言われる人は必ず「努力」しています。
最後に右の坂村真民(しんみん)さんの詩を送ります。頑張れ多賀中生。

「鈍刀を磨く」　　坂村真民

鈍刀をいくら磨いても
無駄なことだというが
何もそんなことばに
耳を貸す必要はない
せっせと磨くのだ
刀は光らないかも知れないが
磨く本人が変わってくる
つまり刀がすまぬすまぬと言いながら
磨く本人を光るものにしてくれるのだ
そこが甚深微妙(じんじんみみょう)の世界だ
だからせっせと磨くのだ

※甚深微妙（じんじんみみょう）「甚深」は、はなはだ深いこと 「微妙（みみょう）」の「微」は、極めて細かいさま。物事の奥底、極めて細かいところまで観察したり、突き詰めたとき、そこに大切なこと（「妙」）が見えてきます。